

生き物文化誌学会第7回例会をふりかえって

生き物文化誌学会常任理事 小田 忠信

平成16(2004)年10月4日(月), 静岡県静岡市の日本平ホテルにおいて, 生き物文化誌学会第7回例会が, 秋篠宮文仁殿下御臨席の中開催されました。

テーマは「蜂と養蜂の文化誌」という広い観点から, 人間と蜂の歴史を考察していこうという非常に興味深いものでありました。講師も内容も, 右プログラムのように大変多彩でした。

お招きした講師はいずれも卓見をお持ちの方ばかりで, 当日は約100人という大勢の参加者となりました。討論会では, 秋篠宮殿下の御質問や東京大学副学長の林先生の御質問をはじめ数多くの質問が寄せられ, 大会の時間が短いのではという嬉しいクレームまでいただき, 司会の大役を仰せつかった主催サイドといたしましては, 盛会のうちに終了することができて, ほっといたしました。

今回の例会の開催にあたりましては, 静岡県養蜂協会, 玉川大学ミツバチ科学研究施設, 東京農業大学の協賛をいただき, 静岡県養蜂協会の鈴木会長, 玉川大学の松香教授, 中村助教授, 東京農業大学の松田理事長, (社)全国ローヤルゼリー公正取引協議会の広瀬会長および例会関係者の方々には特にお世話になりましたことを, この場をお借りいたしまして, あらためて御礼申し上げます。

生き物文化誌学会は, 平成15年5月に秋篠宮文仁殿下が提唱され, 東京大学, 京都大学, 東京農業大学を始め各大学の先生方が設立された, 本当に「生まれたて」の新しい学会です。今までの専門的な学問ばかりではなく, 広い視野に立って色々なテーマに対して議論を重ねる事により, お互いによりよいコミュニケーションの場が開かれ, 専門の研究者や在野の研究者との交流も図れる, 自由な空気がいっぱい学会です。

学会会員の方々も約700名いますが, さま

生き物文化誌学会第7回例会 「蜂と養蜂の文化誌」プログラム

開会あいさつ

湯浅浩史 ((財)進化生物学研究所)

講演1 「家畜化された昆虫たち」

梅谷献二 ((独)農業技術研究機構フェロー)

講演2 「人に役立つミツバチとその生産物」

松香光夫 (玉川大学ミツバチ科学研究施設)

講演3 「伝統養蜂にみるハチとヒトの関係」

佐治靖 (福島県立博物館)

講演4 「タイの村落開発およびシリキット王妃

プロジェクトにおける養蜂の役割」

シリワット・ウォンシリ (チュラロンコーン大学

ミツバチ生物学研究所)

討論会 進行: 松香光夫

総括: 松田藤四郎 (東京農業大学)

ざまな分野で幅広い知識をお持ちの方々, 国内外の教育研究機関, 企業の研究者, 技術者, 学芸員, 歌手, 作家, 芸術家などと多彩で, 研究分野も人類学, 生態学, 地理学, 歴史学, 考古学, 水産学などと広範囲に渡っております。

「蜂と養蜂の文化誌」という今回のテーマの中でも『ミツバチは人間にとって大事な家畜である』という考え方や, 歴史的・伝承的に熊野の養蜂が川の流れをつたって広い地域に伝わり, ある地域のハチの巣箱には今でも『熊野御入る』と書くという伝統が残っているなどの内容は, 私自身がミツバチとかかわって長く経つつもりでも, まだまだ教えられることが多く, あらためて勉強になる1日であったと感服いたしました。

「ミツバチ科学」を購読されている方々におかれましても, 生き物の中で益虫であるミツバチとヒトの交流, 研究が必要と思われる方がおられましたら, ぜひ, 生き物文化誌学会 (URL <http://www.net-sbs.org/>) にご協力およびご支援をお願い申し上げます。

(〒106-0047 港区南麻布 1-2-33 麻布仙台坂ガーデン (株)クキンピーガーデン)